

環境先進国

ドイツから学ぶ

76

吉田 浩巳



ドイツでは、太陽光パネル発電が普及すればするほど電気料金が上がるといことを国民が容認しています。

それでも太陽光パネル発電等の再生可能エネルギーの普及を推進する政府の方針を支持しているのは、原子力発電は現時点で安全性が確保されていないことや化石燃料はCO2を大量に排出するだけでなく、いつかは無くなるという認識を

くためにも、国民が統括原価方式という発電、送電、配電など電力会社の経営にかかるすべてのコストに、ある程度の利潤を足して電気料金を決めることになっている電気料金の仕組みなどをもっと注視する必要があります。

原子力発電については、安全性についての議論は福島原発事故以来、すでに国民的議論になっていきますが、もうひとつ大きな問題

て進められている福井県敦賀市にある高速増殖炉もんじゅは1995年のナトリウム漏れ事故以来、一旦稼働したものの技術的な問題も残っており、現在も止まっています。

使用済み核燃料から再処理で抽出したプルトニウムをウランと混合してMOX燃料を作り、それを利用するプルスーマル計画がありますが、これもさまざまな問題を抱えており、六ヶ所村ではMOX燃料工場の着工時期も延期になっている現状です。

注目の新エネルギー②

再生可能エネルギーへ法整備

多くの国民が共有しているからです。

その結果、再生可能エネルギーに取り組む必要があるという認識を持っている議員を選び、次々に環境関連の法整備が進められています。

日本では、これからさらに環境問題に取り組んでい

があります。それは原子力発電所から出る使用済み核燃料の処分問題です。

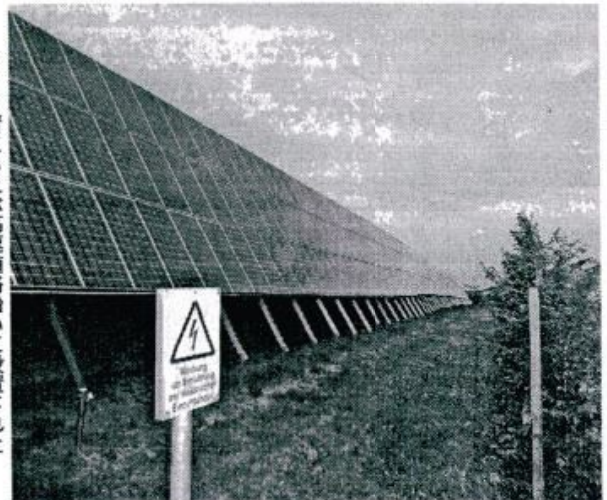
現在、青森県六ヶ所村で日本原燃という電力業界の共同出資会社が国策の一環としてこの使用済み核燃料の再処理工場の運転を予定

していますが、度重なる完成の延期で現時点においても機能していません。

また、発電しながら消費した量以上の燃料を作り出すということとで半永久的に使用できるエネルギーの仕組みとして推進され、核燃料サイクルの

そのため、高レベル放射性廃棄物の最終処理場が見つかからないという課題も抱え、一部の使用済み核燃料の再処理をフランスなどの外国に依頼している状況でもあります。

このように、原子力発電が抱えている問題は多岐にわたります。しかしながら、再生可能エネルギーには問題がないというわけではありませぬ。自然エネルギーを使うということは、安定したエネルギーを得られないことも大きな課題です。風力発電においては、景観の問題や風切り音のため近隣住民から夜眠れないなどの苦情もあり、そのたびにプロペラの回転速度を落としたりしているそうです。(社団法人まちづくり国際交流センター理事長) 第2、第4、第5水曜 日掲載



800mにも及ぶ高速道路沿いに設置された太陽光発電パネル